

平和体験研修

中学生の 平和体験作文

市では、8月4日から6日まで、「平和体験研修」として、市内4中学校3年生の代表20名を広島市へ派遣し、平和記念資料館の見学、被爆体験者の講話の聴講、平和記念式典への参列などを行いました。

次代を担う中学生が、世界の歴史上初めて投下された原子爆弾によって想像を絶する惨害を被った広島を訪れ、生命の尊さを実感して、核兵器の廃絶と恒久の平和を念願し、21世紀を「平和の世紀」にするために努力する強い意志と態度を育む契機としてほしいとの願いから実施しています。

ここに、生徒の体験作文を掲載しますのでお読みいただき、家庭などでの話し合いの参考にさせていただきたいと思えます。

平和へのメッセージ



岡谷南部中学校
あし 味 さわ 澤 よし 嘉 かず 和

僕は、8月4日、5日、6日と広島平和研修に参加しました。僕は、この研修を通じて原爆によって何の罪もないたくさんの子どもたちが亡くなったことを知りました。その中でも奇跡的に生きのこった子どもたちもいました。僕たちは、その一人の寺本さんのお話を聞くことができました。

寺本さんは、小学五年生の時に被爆したそうです。田舎のお寺で疎開していた寺本さんは、二日前に広島に帰っていました。そして、8月6日月曜日。天気は雲一つない晴天。寺本さんは、近くに住む友達と遊んでいました。そして、病院に行く時間になったので家に帰って準備をして、疎開先への手紙を書いていた、その時、真後から鋭い光を感じ振り返った。そして家のがれきが背中に当たる。しかし、痛いという感覚はなかった。寺本さんは、明るくなった方に一人で立ちあがり歩きだした。ふっと、顔を触ってみると血だらけだったそうです。近所のおばさんに会いおぶってもらい、一緒に

家にいた母を待った。しかし、現れなかった。そして、おぶってもらいながら西へ逃げている最中に、顔だけががれきから出ている人。皮膚がただれている人。何も建物がない町。ほんの数分前からは想像することのできない光景を見たそうです。

それからしばらくして、傷にうじがわいたり、放射線の障害で髪がぬげたりしたそうです。また、8月14日に寺本さんの母が亡くなったそうです。がれきの下から助けだされたものの、どんどん衰弱して、最後は話すこともできなくなったそうです。この年の終わりに14万人(十一万人)という数のたくさんの方が原子爆弾によって亡くなったそうです。

そして、寺本さんは、最後にこんなことをいっていました。「平和とは自分の身近なさいなことからつくりあげないと大きな平和はやってこない。人を憎んだり、いじめたり、そういうことのない世界をつくっていくことが世界の平和につながるっていく。」僕は、この言葉を思い出して、まず自分の身近な学校、クラスで始めていきたいです。そうすることで世界の平和に一步前進するのではないかと思います。寺本さんは、原爆を落としたアメリカをにくむことを心の中におしこめて世界の恒久平和や、核廃絶を目指しています。僕

も平和な社会をつくるために、自分にできることをしっかりとしたいです。

そして平和記念式典にも参列してきました。多くの遺族の方、原爆の恐ろしさと平和を学ぶ中学生や外国人の方もたくさんいました。

その中で印象に残ったのは、小学六年生が読んだ「平和への誓い」です。その中でこんな一文がありました。「途切れそうな命を必死でつないできた祖父母たちがいたから、今の私たちがいます。原子爆弾や戦争の恐ろしい事実や悲しい体験を、一人でも多くの人たちに伝えることは、私たちの使命です。」僕もこの研修を通じてそう思えるようになりました。

日々、なにも不自由ない暮らしができているから、今を生きる人々は平和について考えることなく暮らしています。しかし、今、絶えることのない地域紛争が起きている国もあります。今は、まだ世界中が平和という状況ではないのです。また、日本は戦争もない平和な国であることは、過去に起きた惨劇を今に伝えられているからです。だから未来が平和であるためには、これを僕たちが伝えていかなければなりません。62年前の夏、ヒロシマで起きたことを遠い昔の話にはせずに未来に伝えていきたいと僕は思います。

広島平和資料館で見た、全身に

やけどを負って亡くなった女性の写真。お弁当を食べられず真っ黒にこげたお弁当を持ったまま亡くなった男の子。千羽鶴を折り、病気が治ると信じ、千羽を折る前に白血病で亡くなった佐々木禎子さんの折り鶴。僕は、これらを資料館で見て、原爆で亡くなった無念な思いと二度と同じことを繰り返してはいけないという強いメッセージのように受けとることができました。今は、世界のたくさんさんの国が核実験をして、いつ核戦争がはじまってもおかしくない時代になってしまいました。そんなことが始まったら無差別にたくさんの方が亡くなり、放射線による後遺症が残り、「死んでも地獄、生き残っても地獄。」こんな世界になつてしまいます。だから、一日でもはやく核を持っている国の核放棄が必要だと思いました。



今回、この20人のメンバーと一緒に三日間を過ごせ、貴重な体験から平和について学べたことをとても嬉しく思います。今回の研修で平和について改めて考えることができ、今、平和に不自由なく暮らすことをとても幸せなことだと実感できました。



『強よ』と『優つた』
岡谷北部中学校
矢島 愛

今回の広島平和体験研修は、私にとって一生忘れられない貴重な体験となりました。戦争の事実を見て、聴いて、感じて、改めて心の平和について考えさせられました。そしてこの研修で私は多くの事を学び、大切なものを得る事ができました。

4日、実際に広島のに足を運んだ私は街の賑やかさに、「ここが本当に62年前に原爆を落とされた場所なのだろうか？」と、疑問に思いました。しかし、原爆が落とされた事は事実なのだと言語る建物がありました。原爆ドームです。華やかな街に静かに佇むその建物は、62年間変わりゆく広島の様子を見続けてきたのでしょうか。しかし今、原爆ドームの存在が周りの建物などで薄れてしまってきているように思えます。忘れてはならない原爆の象徴が、ただの観光スポットになってしまいうような、そんな気がして私は寂しさを感じました。

それから私がずっと行ってみたいと思っていた資料館には、原爆

が残したものがほぼそのままの形で展示してあり、原爆の威力、悲惨さがひしひしと伝わってきました。中でも私が特に印象に残っているのは、被爆者の方が描かれた一枚の絵でした。そこには、焼け野原に立つ一人の人間の骨が描かれていたのです。私は初め、何の絵か分からず、横の文章に目をやりました。そこには大体このような事が書かれていました。「私と叔父が、家があったと思われる場所に着くと、そこには一人の骸骨が立っていたのです。叔父はそれを見るなり骸骨にかけ寄って、『お、おめんよ。痛かっただろう。おめんよ、おめんよ。』と言つて、その場に泣き崩れました。」

こう書かれた文章を見た時、私はとても悲しくなり、目頭が熱くなりました。今でも思い出すと、胸が締めつけられ涙が出てきます。同じように、被爆者体験講和研修で寺本さんのお話をお聴きした時も、どうしようもない思いでいっぱいになりました。小学校五年生で母を亡くし、絶望の中生き抜いてきた寺本さんの体験は、私が想像していた以上に悲惨で、残酷なものでした。しかし当時は泣き言も言っていられなかったでしょう。多くの方が亡くなり、多くの方が傷つき、戦争が残したものは一体何なのか、本当につらく厳しい現実だったと言います。ですが、

憎しみからは何も生まれえないという事も、一番良く知っているのだと思います。寺本さんが、こうおっしゃっていただけです。「平和とは自分の身近からつくり上げていくもので、人を憎んだり、いじめたり、差別しない事です。大きな平和につながる物は、まず隣の人を思いやり、大切にすること。」

式典で子ども代表の二人も言っていた事です。「嫌なことをされたら相手に仕返しをしたい、そんな気持ちは誰にでもあります。でも、自分の受けた苦しみや悲しみを他人にまたぶつけても、何も生まれません。同じことがいつまでも続くだけです。平和な世界をつくるためには、憎しみや悲しみの連鎖を、自分のところで断ち切る『強さ』と『優しさ』が必要です。」

この言葉が心に響く人はきっと多いと思います。自分がされて嫌な事は、人にはしない。当たり前前の事です、なかなかできない事だと思えます。しかし、これができなければ平和な世界なんて一生つくれません。平和な世界をつくるていくには、まず自分たち一人ひとりが変わる必要があるのです。一人ひとりが『強さ』と『優しさ』を持つことができれば、きっと世界は変わっていくと思います。

今の日本は本当に平和な国です。しかし、世界中で争いが絶えるこ

とはありません。毎日どこかで何万もの人が死に、今この瞬間にも、多くの人が傷つけられています。それと同時に、新しい多くの命も誕生しているのです。式典で子ども代表の二人が最後にこう言っていました。「私たちは、あの日苦しんでいた人たちを助ける事はできませんが、未来の人たちを助ける事はできるのです。」と。確かに過去の事は悔いてもどうにもできないけれど、これからの未来の事は出来る事がたくさんあるのです。ですから私は、自分自身が持つ『強さ』と『優しさ』で周りの人を大切に、自分がされて嫌な事は人にはしないという事を前提に、平和の輪を広げていきたいです。



最後に、私に大切なものを教えてくれたこのような素晴らしい体験をさせていただいた皆さまに、

心から感謝の気持ちを伝えたいです。大切な仲間と出会い、一生忘れられない物を得られ、私は少し変わったような気がします。学んだ事を今後に生かし、自分から平和の輪を伝えていきたいです。本当にありがとうございます。

自分なりの答え



岡谷西部中学校
塚田 結貴

三日間現地広島に行かせてもらい、私は多くの事を考えることができ、私は本当に何か成長した研修になりました。

寺本さんのお話は今までテレビやビデオで聞いたのより何倍も重く感じました。私がその中で特に印象に残った言葉があります。「戦争とは死そのもの。」「憎しみはないと言ったら嘘になるけれど、願いの方が強い。自分がした体験を伝え、こんなことがもう二度とおこらない世の中にしてほしい。」という二つです。「死」という言葉を実際に聞くと、怖くて鳥肌がたつた程でした。言葉でどれだけその事を聞いても、被爆者の方の気持ちにはなりきれないし、状況だつて想像できないと思います。でも怖さは今まで一番伝わってきた

ました。本当に怖かったです。その想いを胸に訪れた資料館。一つ一つのものや写真が平和を訴えているように見えました。その度、「なぜこんな事が起こらなければならなかったのだろう。止めることはできなかったのだろうか。何かできることはないのか。」そして「平和な世界にしたい。」と強く思いました。爆風でずれた鉄橋、大事そうにお腹にかかえていたという黒焦げた弁当箱、ポロポロになってしまった学生服、目を疑いたくなるような数多くの方々の写真など、今も鮮明に焼きついているからこそ、そう思えるのでしょう。

世界で唯一の被爆国、日本。ここに生まれた私たちにとってできることはないでしょうか。それは私の研修テーマ、そして寺本さんのお話、さらには平和祈念式の中の『平和への誓い』から見つけ出すことができました。私の研修テーマは「本当の平和とは何か」というものでした。参加する前の自分は、テーマについて考えてこられるのか正直心配もありました。でも「ある本の中に、『平和は、自分の身の回りのささいなことからつくりあげていかなければ大きくならない』と書かれていた。いじめや差別をなくすこともそうでしょう。」という寺本さんの言葉。「嫌なことをされたら相手に仕返しを



したい、そんな気持ちは誰にでも
あります。でも、自分の受けた苦
しみや悲しみを他人にまたぶつけ
ても、何も生まれません。平和な
世界をつくるためには、憎しみや
悲しみの連鎖を、自分のところで
断ち切る強さと優しさが必要です。」
強く胸を打たれた、こども代表の
平和への誓い。

また、この三日間を通して見つ
け出したこと。それは「強く優し
い心を持ち続け、平和という幸せ
を自分の身の回りからつくりあげ、
身近なところから平和を訴えてい
くことではないでいくこと」です。
自分なりにまとめたものなので、
まだまだ物足りない部分もたくさ
んあります。だけど、できること
を見つけられた以上実行する他に
開ける道はありません。まずは伝
えることです。学んだことを少し
でもたくさんの人に知ってもらえ
るよう、努力したいです。

この研修を通して多くの仲間が
できました。他の学校とは思えな
いくらい仲良くなれました。心配
など何もいりませんでした。この
メンバーで学べたこと、嬉しく思
います。

最後に、こんな素晴らしい機会
を与えてくださった岡谷市の方々、
先生方や保護者の方々をはじめと
したたくさんの方々には本当に感
謝です。平和への一歩を踏み出せ
たととても貴重な三日間、忘れられ
ない研修になりました。ありがと
うございました。

『平和』とは。



岡谷東部中学校
山田花梨

まだ平和学習を始めたばかりの
頃、学校集会で、「今あなたは平
和だと思いますか？」という質問
に、私は「平和だと思う。」と答
えました。なぜなら、私は今、毎
日三食ご飯が食べていられるし、
学校にも行けているし、好きなこ
とや、楽しいこともたくさんでき
ているからです。平和と言えるほ
どに十分な生活ができています。
です。

ですが、平和体験研修へ行って、
「本当に平和なのか？」と考える

ようになりました。

前に思っていたのは、自分だけ
の平和であり、実際に外国では戦
争やテロが起り、今日一日生き
ていけるか、という人もたくさん
います。また、世界には全人類を
何回も全滅させてしまうような核
兵器もあり、それを持っている国
も数多くあります。

「もし今、核兵器が日本に落ち
てきたら。」そんなことを考えま
した。

当然、今までの日本の豊かな暮
らしはなくなり、あたり前だと思
い続けていた自分だけの平和さえ
もなくなってしまう。

“PEACE IS NOT
ENOUGH” “平和は十分では
ない”まさにこれです。

ある人が、「平和だ。」と思っ
ても、ある人は、「平和じゃな
いな。」と思ったりすることもあ
ります。

絶対的な平和はないのです。

では、どうしたらこれに近づ
くことができるのか。一番は、世
界のみんなが本気で戦争をなくそ
う、核兵器をなくそう、差別をな
くそうと思ひ、争いごとをゼロに
することだと思います。しかし、
そう言い続けても聞かない人達が
たくさんいます。でも、言い続け
るしかないのです。原爆を落とさ
れた唯一の国だからこそ、原爆の
怖さを一番分かっている日本だけ

からこそ、言い続けなければなら
ないと思います。

また、自分のまわりのささいな
ことから考えていかなければ、平
和は生まれません、という、お話を
聞かせてくださった寺本さんの言
葉で、私も考えるようになりまし
た。今では、軽い気持ちで、中傷
的な言葉を使ってしまおうことが世
の中に溢れていて、私も使ってし
まうことがあります。これでは戦
争と同じです。

口げんかから始まり、それが暴
力へと発展していく。個人レベ
ルで考えればちょっとしたことか
もしれませんが、国レベルで考え
れば、戦争のようなものです。

悪い言葉を使ったりするのはや
めるのも、平和への一歩につな
がるのでは？と、私は考えました。

『平和』とは。この答えを出す
ことは、とても難しいことだと思
います。人それぞれで、平和の価
値観は違うと思うし、どこに住ん
でいるか、だけでも、平和に対する
答えは全然変わってきます。しか
し、具体的には分からないけれど、
地球上にいる全員が、幸せで安心
だな、と思えば、ある意味平和と
言えるのではないかな？と思いま
した。

この結論は出せるか分からない
けど、これからも、『平和』とは
何かを考え続けていきたいと思
いました。